

令和5年6月1日

京都府中丹東農業改良普及センター

京都府中丹西農業改良普及センター

大雨による冠水・浸水対策情報

台風2号は6月1日(木)から3日(土)にかけて沖縄地方に接近する見込みです。西日本でも前線の活動が活発化して大雨が降る可能性があります。ついては、以下の事項を参考に十分な対策を講じてください。

1 水 稲

水稻は冠水時間が長くなるほど減収率が高くなります。水が引き次第、状況に応じた対応をしてください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ・水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除く。

2 豆 類（「紫ずきん」を含む）

豆類は一般的に湿害に弱く、浸冠水時間及び滞水時間が長くなると減収率も高くなるので、水が引き次第、速やかにうね間の排水を促し滞水時間を短くしてください。また、病害が発生しやすくなるので、必ず予防防除を行ってください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除くとともに、うね間に滞水しないよう排水を促し、ほ場の乾燥に努める。
- ②浸冠水すると病害虫が発生しやすくなるので、直ちに予防防除を行う。
茎葉に付着した泥を落とすように防除する。
- ③土壌が乾いた後、浅く耕し、通気性を確保する。
- ④雑草が多発する場合がありますので、雑草の発生状況を確認し、必要に応じて除草剤の散布を行う。

3 野菜、花き

冠水したほ場では、土壌中の酸素が欠乏するため、根の呼吸が阻害され、根腐れ、茎葉の萎凋など、さまざまな症状が発生します。以下の点に注意し、速やかに必要な対策を行って下さい。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①マルチ栽培では、マルチをめくり土壌表面の乾燥を促す。
- ②退水後は直ちにほ場を清掃し、土が乾いた後、根を傷めないように浅く耕し通気性を確保する。また、排水溝を深めに整備し排水に努める。

- ③ 茎葉に泥の付着が多い場合、清浄な水や殺菌剤の散布により速やかに洗い流し、光合成の低下や病害の発生を防ぐ。
- ④ 冠水によって土壤中の窒素や加里が流亡し、葉色が薄くなり生育が緩慢になることが心配される。「根腐れ」や「しおれ」がないことを確認した後、追肥として窒素と加里を含む速効性の肥料を施用して、樹勢の回復を図る。
施用方法は、1アール当たり窒素成分で0.1～0.2 kgを5日間隔で2～3回程度、土壌表面または通路に施用する。
- ⑤ 果菜類では、樹勢の低下が見られる場合は、摘果と若穫りにより着果負担を軽減し、樹勢の回復を図る。また、トマトやトウガラシ類では、カルシウム欠乏による尻腐れ果の発生が心配されるため、カルシウム剤の葉面散布を5日間隔で2～3回程度行う。
- ⑥ 風雨による茎葉の傷からバクテリアや糸状菌が侵入し、病害が発生する恐れがあるので、殺菌剤の予防散布を行うとともに、こまめに観察し、発生初期から防除を行う。特に、疫病、軟腐病などの土壌病害の発生が多いので注意する。
- ⑦ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。
- ⑧ ハウス栽培で冠水した場合には、速やかに排水に努めるとともに、強光でハウス内が高温になる場合は、遮光により昇温を抑制し、草勢の回復を図る。

4 果 樹

- ① 浸水した場合は、速やかな排水に努める。
- ② ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、適用のある農薬を確認して殺菌剤を散布する。

5 茶

(1) 茶園管理

- ① 浸水した茶園は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 病害が発生しやすいので、適用のある農薬を確認し、治療効果のある薬剤による防除を徹底する。